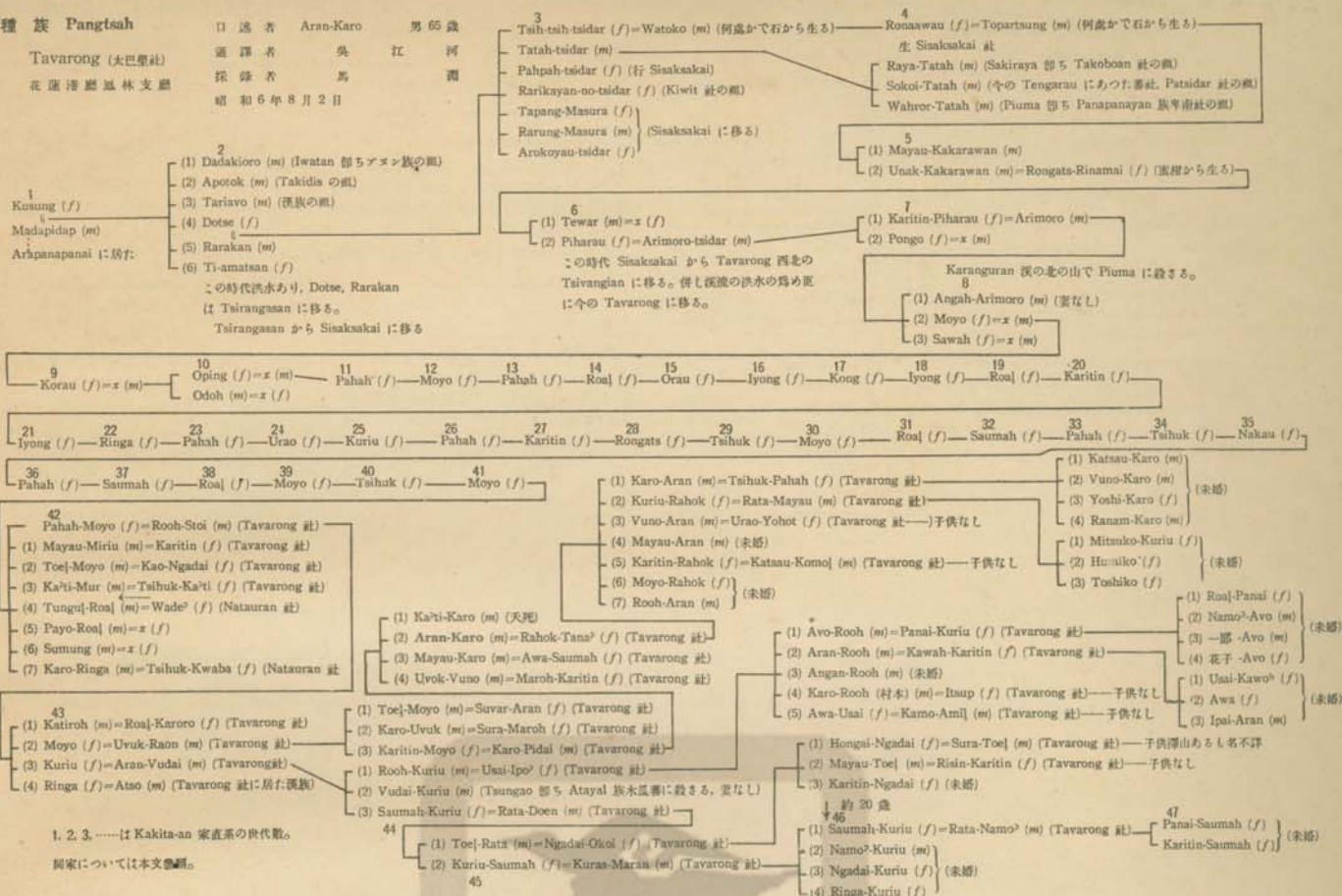


Tavarong (大巴里社)
花蓮清國風林支團

口述者 Aran-Karo 男 65 歳
通譯者 吳 江 河
採録者 馬 酒
昭和 6 年 8 月 2 日

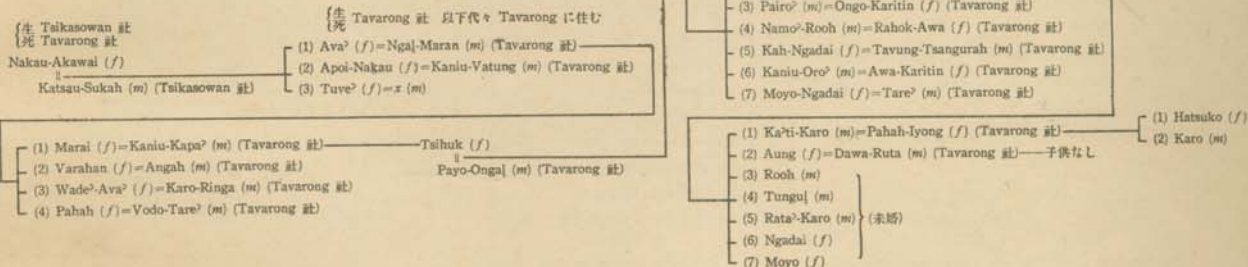


1, 2, 3, ……は Kakita-an 家直系の世代数。
同家については本文参照。



Tavarong 社 (Tsikasowan 社系統)
花蓮清國風林支團

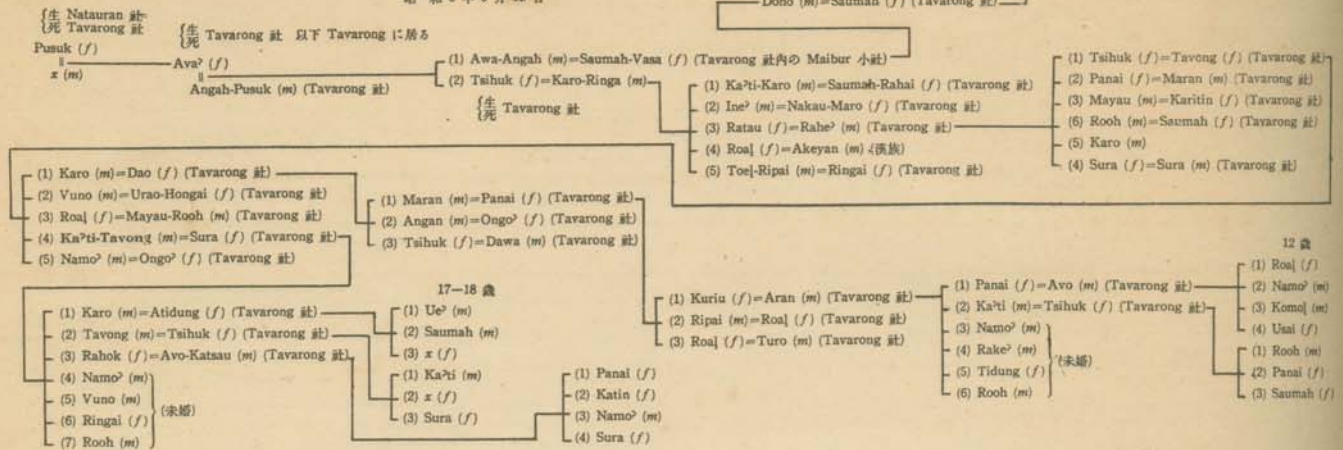
口述者 Rooh-Payo 男 約 80-85 歳
通譯者 Vudai-Maran
採録者 馬 酒
昭和 6 年 6 月 15 日



277 種族 Pangtsah

Tavarong 社 (Natauran 社系統)
花蓮港廳鳳林支廳

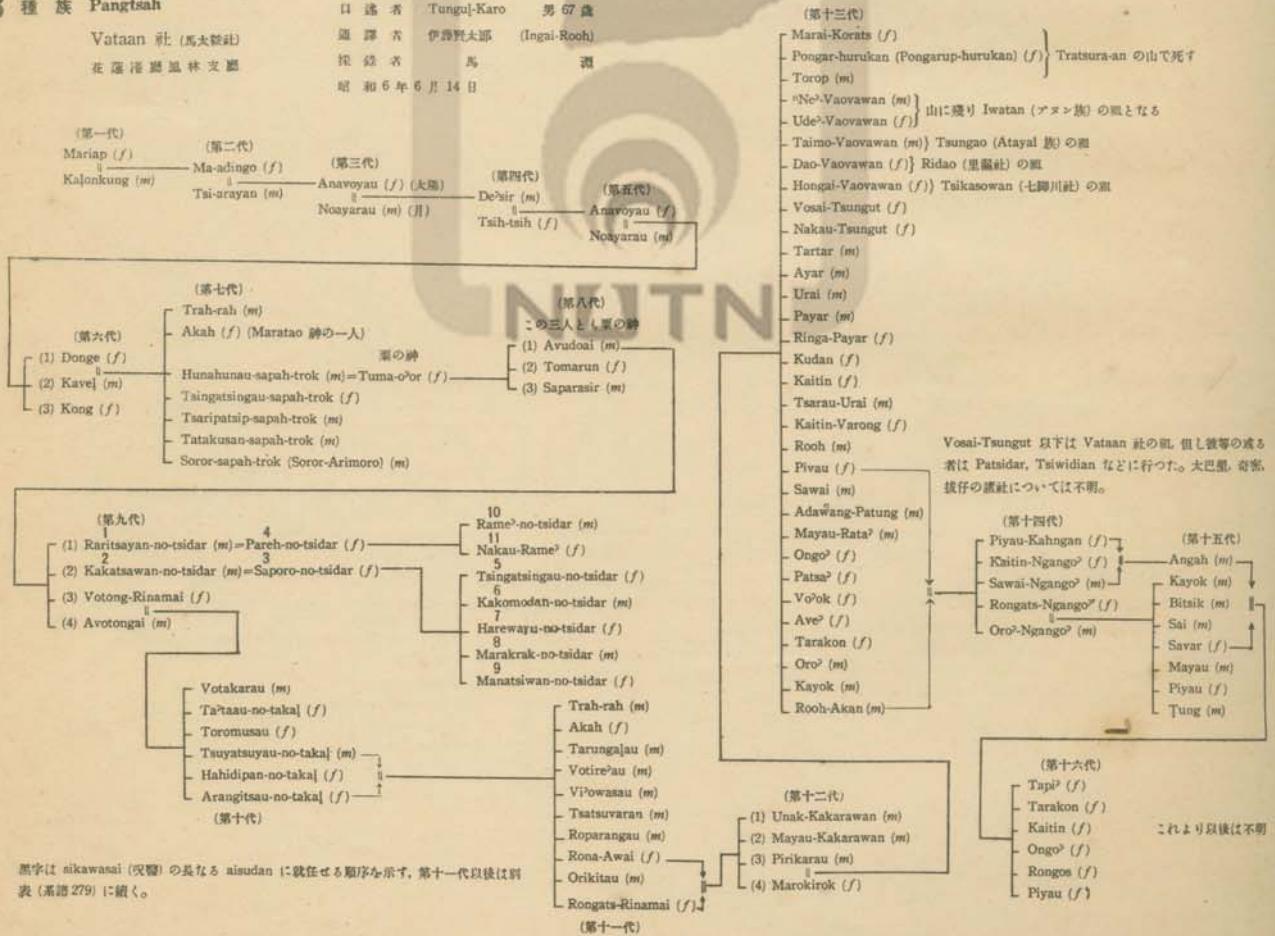
口述者 Ka'ti-Tavong 男約 75 歳
通譯者 Vudai-Maran
採録者 馬 潤
昭和 6 年 6 月 15 日



278 種族 Pangtsah

Vataan 社 (馬太社)
花蓮港廳鳳林支廳

口述者 Tungul-Karo 男 67 歳
通譯者 伊藤野太郎 (Ingai-Rooh)
採録者 馬 潤
昭和 6 年 6 月 14 日



黒字は nikawasi (呪醫) の長なる aisudan に就任せる順序を示す、第十一代以後は別表 (第 279) に続く。

Vataan 社 (馬大鞍社)
花蓮港藍風林支廳

口述者 Tungul-Karo 男 67 歳
通譯者 伊藤賢太郎
採録者 馬 潤
昭和 6 年 6 月 14 日

(saparungau 及び aisudan については本文参照)

saparungau の系譜

兄弟である

- (1) Soror-Arimoro—(2) Vudai-Dokui—(3) Unak-Soror—(4) Angah-Soror—(5) Dokui-Soror—(6) Mayau-Soror —(7) Tsi-riman—(8) Tsi-oro²—(9) Tsi-pakai—(10) Tsi'ie—(11) Mi'pak
- (12) Sarois—(13) Tsungung —(14) Rooh-Tsungung—(15) Vake-Ririu—(16) Takudong-Ayats—(17) Omo-Kisai—(18) Ana-Oram—(19) Oram-Mangai—(20) Oram-Hovahi—(21) Adaro-Vara
- 兄弟である
- (22) Kame-Anau—(23) Tuva²—(24) Sawai-Votong—(25) Sawai-Riv—(26) Unak-Kuvi²—(27) Sapits-Oping—(28) Iko—(29) Okak —(30) Iko-Tono—(31) Mayau-Tono—(32) Tono-Iko
- 兄弟である
- (33) Panong-Deve²—(34) Maysu—(35) Marok-Mayau —(36) Voteng—(37) Okong—(38) Daon—(39) Iriu—(40) Vasa²Orok—(41) Amits-Tioñ—(42) Oram-Varat —(43) Marok-Oram
- (44) Nam²—(45) Sai—(46) Amis-Kaniu —(47) Tono-Komong—(48) Marau-Unak —(49) Tsarau-Aras—(50) Panong-Katipi—(51) Tsarau-Adar—(52) Oram-Kaapad—(53) Anau-Kangapa
- (54) Avo-Payo—(55) Dokoi-Komo²—(56) Risin-Tsiak—(57) Doho-Amokau—(58) Sawai-Toi —(59) Angah-Nengau—(60) Dokoi-Papung—(61) Kara-Oras—(62) Papai-Riar—(63) Iko-Oram
- (64) Tungul-Karo (口述者、十七年間 saparungau の職にあつた)——(65) Panong-Oram (就任してから八年になる)

sikawasai (呪物) の長なる aisudan の系譜 (系譜 278 より續く)

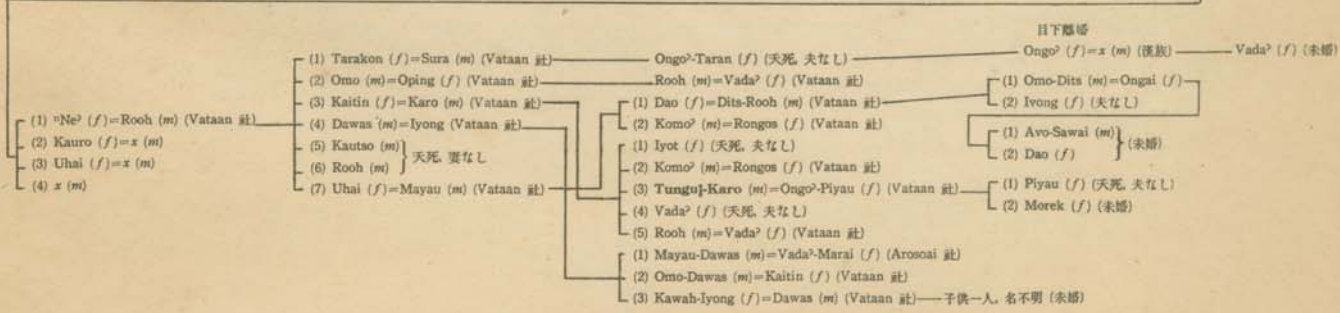
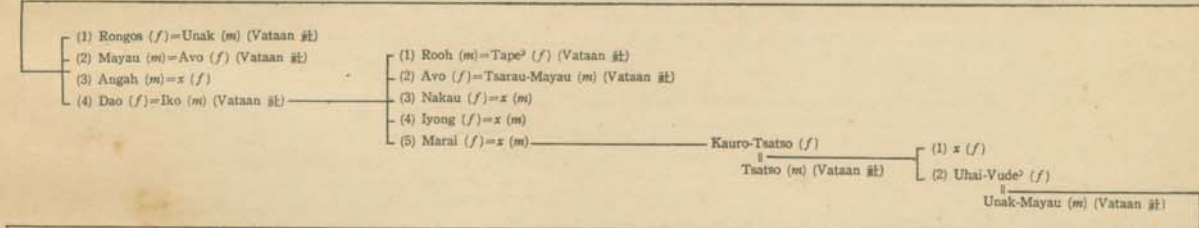
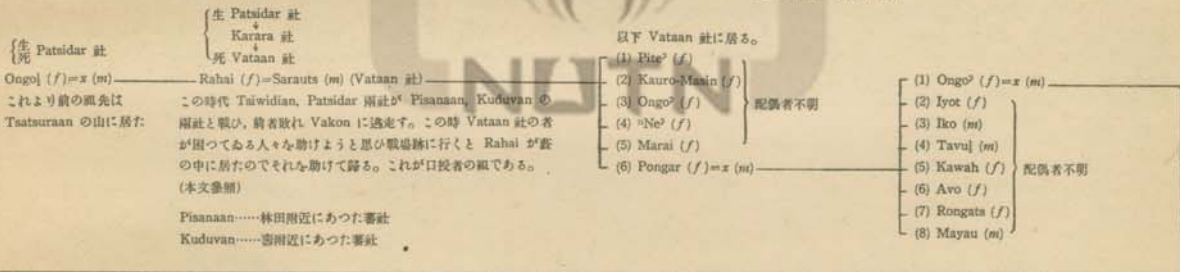
- (12) Kaitin-Varong (f) —(13) Kaworo-Ririu (f) —(14) Rongats-Tewar (f) —(15) Avorong (m) —(16) Nakau-Taputs (f) —(17) Saumah-Tso² (f) —(18) Mi'pi (m) —(19) Tsoroh (m) —(20) Dadoi (m)
- (21) Midokoi (m) —(22) Mi-Unak (m) —(23) Arum (m) —(24) Papung (m) —(25) Mayau-Miadar (m) —(26) Nam²-Tsaurawan (m) —(27) Tung-Urai (m) —(28) Tung (m) —(29) Tsarau-Pis (m)
- (30) Tsarau-Koyo (m) —(31) Tavots (m) —(32) Marok-Tavuj (m) —(33) Karo (m) —(34) Mayau-Dewes (m) —(35) Tuva² (m) —(36) Patung (m) —(37) Urao-Ta² (f) —(38) Tavung (m)
- (39) Marok-Tavung (m) —(40) Kapa² (m) —(41) Karo-Kadong (m) —(42) Dawas-Paninats (m) —(43) Kaniu-Ojapan (m) —(44) Anau-Papo² (m) —(45) Kaitin-Tsatsing (f) —(46) Saumah-Paono (f)
- (47) Iyot-Pongar (f) —(48) Vada²-Kai (f) —(49) Pade²-Ngangui (m) —(50) Ado-Tonai (f) —(51) Vasa²-Kaniu (m) —(52) Dawas-Angah (m) —(53) Vasa²-Anau (m) —(54) Voyan-Koko² (m)
- (55) Mayau-Ano² (m) —(56) Vasa²-Wasiran (m) —(57) Ising-Tsarau (m) —(58) Dawas-Korats (m) —(59) Voteng-Kakatsawan (m) —(60) Angah-Oda (m) —(61) Angah-Wasiran (m)
- (62) Vasa²-Wasiran (m) —(63) Ong²-Tsatsing (f) —(64) Roats-Tsatsing (f)

(53 歳位)

管線に附せるは現存する sikawasai。このうち Voteng-Kakatsawan は sikawasai の長であるが老年のため、實際は Angah-Oda が代理をつとめてゐる。

Vataan 社 (馬大鞍社) (Tsiwidian 社系統)
花蓮港藍風林支廳

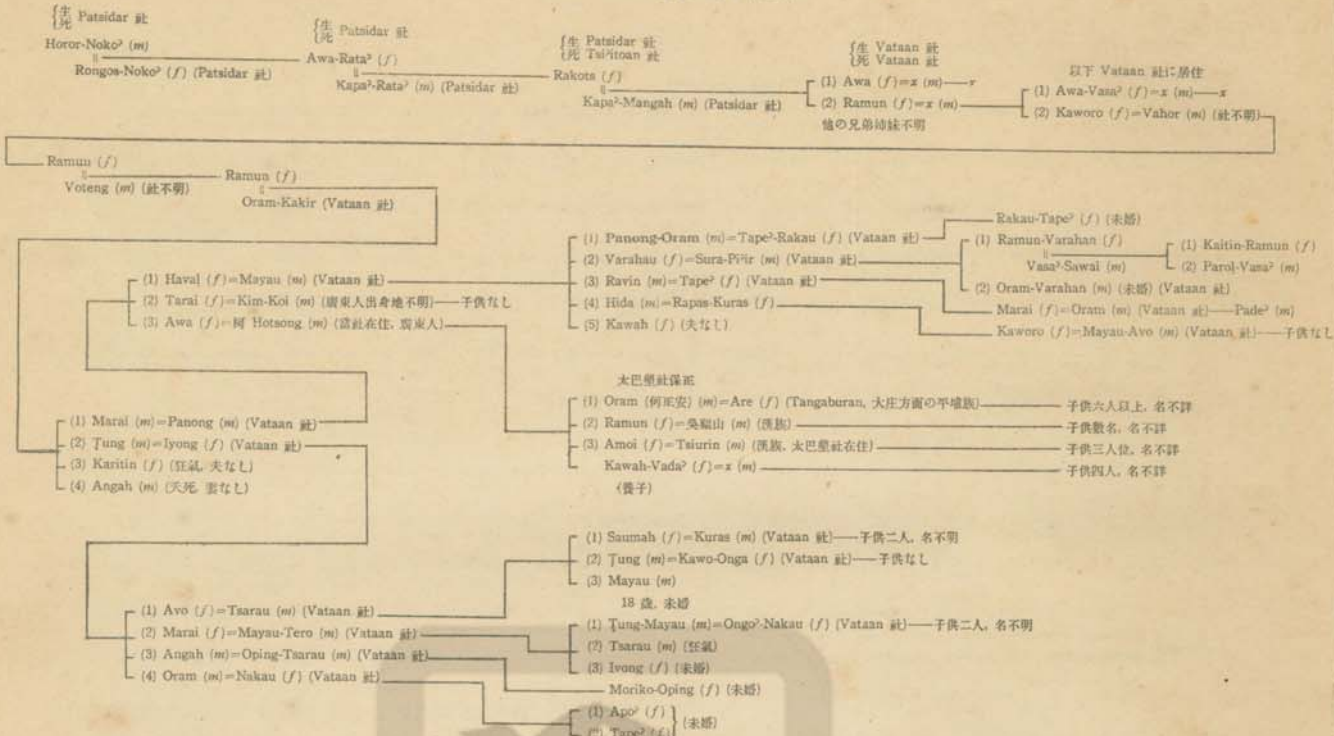
口述者 Tungul-Karo 男 67 歳
通譯者 伊藤賢太郎 (Ingai-Rooh)
採録者 馬 潤
昭和 6 年 6 月 20 日



281 種族 Pangtsah

Vataan 社 (馬大鞍社) (Patsidar 社系統)
花蓮港廳鳳林支廳

口述者 Panong-Oram 男 65 歳
通譯者 伊藤野太郎 (Ingai-Rooh)
採録者 馬 潤
昭和 6 年 6 月 14 日



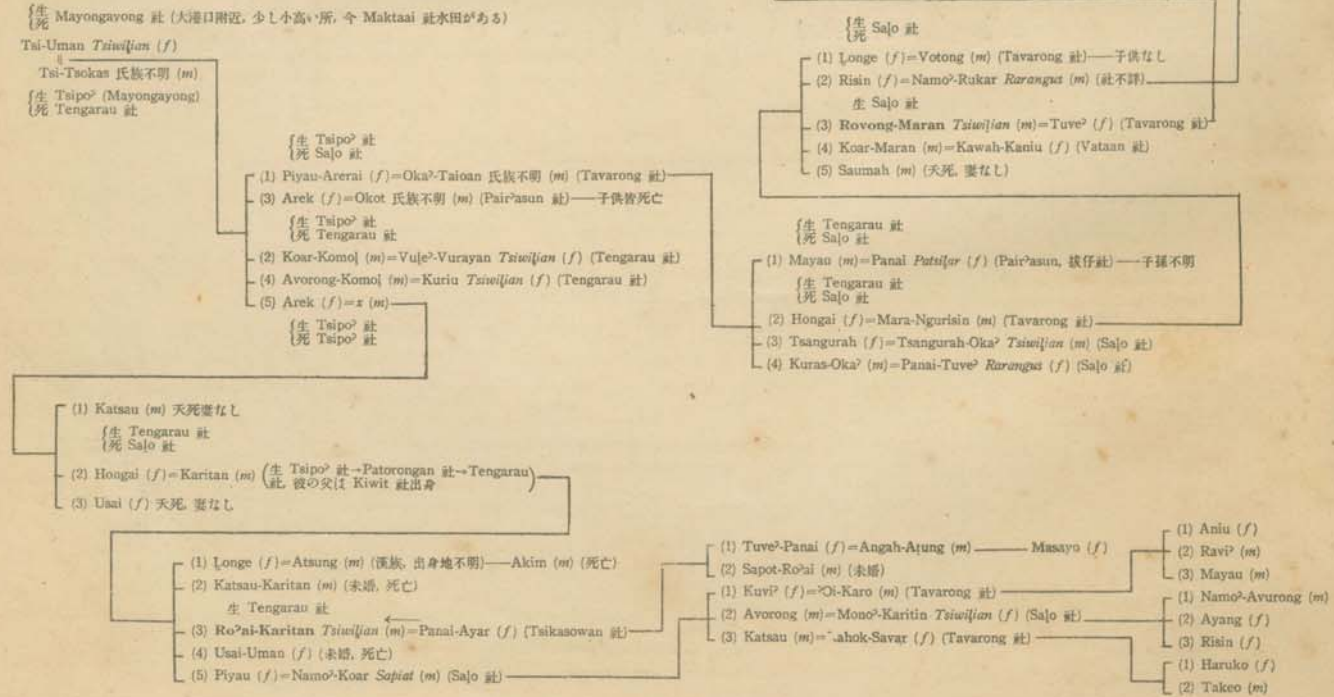
Patsidar 社——昔、月窟から大巴里近くまで海岸山脈西方山麓に通つてゐる社。
Tsi'itoan 社——馬大鞍の東南数町、大和製糖工場及び派出所のある所。

282 種族 Pangtsah

Salo 社 (沙落社) Tsiwilian 氏族
花蓮港廳鳳林支廳

口述者 Royong-Maran 男 約 70 歳
Roi'ai-Karitan 男 72 歳
通譯者 佐久間武一郎 (Vajai-Sapots) 40 歳
採録者 馬 潤
昭和 6 年 6 月 13 日

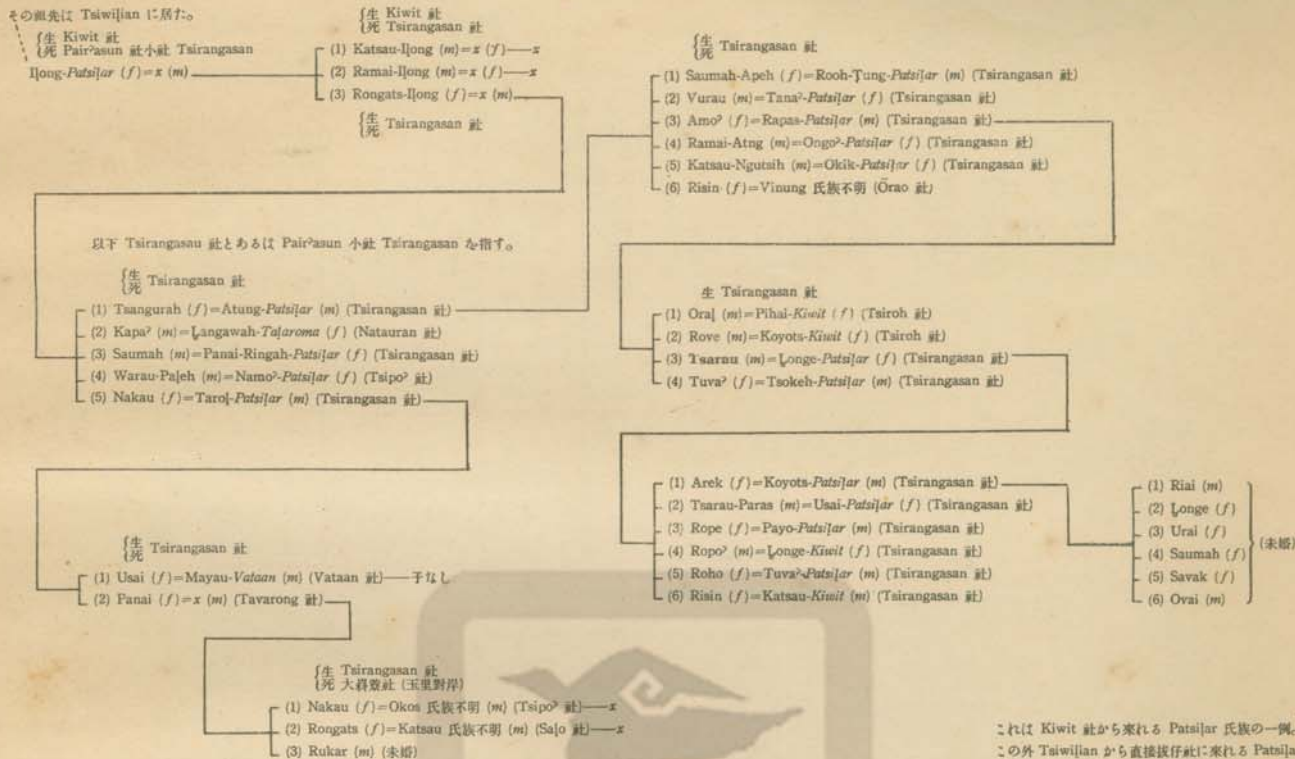
昔、大巴里社から水蓮尾 (Tsiwilian) に Tumai-Ko'oi と云ふ男が特に行き遠くへりの大木の中から Avang-Mariljuts (遠くへり、raijjuts) と云ふ女を見出し、これと結婚して、その子孫が Tsiwilian 社となる。併しその地には高山蕃 (アモン、アキヤム) 種族が有勢に來ること多く、遂に Valkon 社西方の Tengarau に移る。また、この移動に先立つて Tsi'po' に移れるものもあつた。口述者の祖は後者に屬する。(本文参照)



283 種族 Pangtsah

Pair'asun 社 (抜仔社) 小社. Tsirangasan, Patsijar 氏族
 花蓮港廳鳳林支廳

口述者 Tsarau-Patsijar 男 57 歳
 採録者 馬 潤
 昭和 7 年 4 月 6 日



これは Kiwit 社から来れる Patsijar 氏族の一例。
 この外 Tsaiwilian から直接抜仔社に來れる Patsijar 氏族もある。當地では後の方が早い。

284 種族 Pangtsah

Tokar 社 (觀音山). Tarakop 氏族
 花蓮港廳鳳林支廳

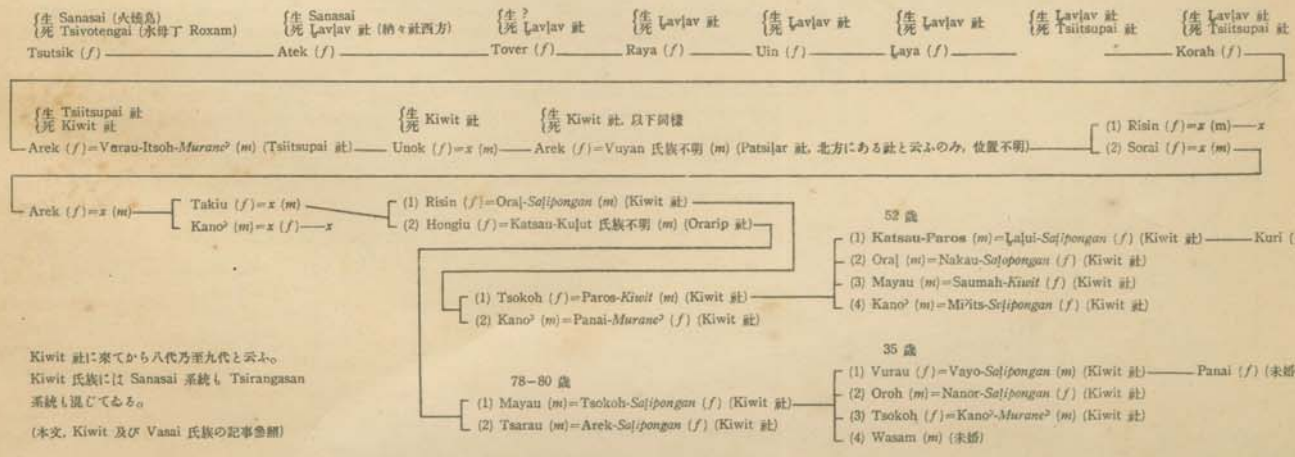
口述者 Kukui-Tarakop 男 明治六年生
 採録者 馬 潤
 昭和 7 年 4 月 18 日



285 種族 Pangtsah

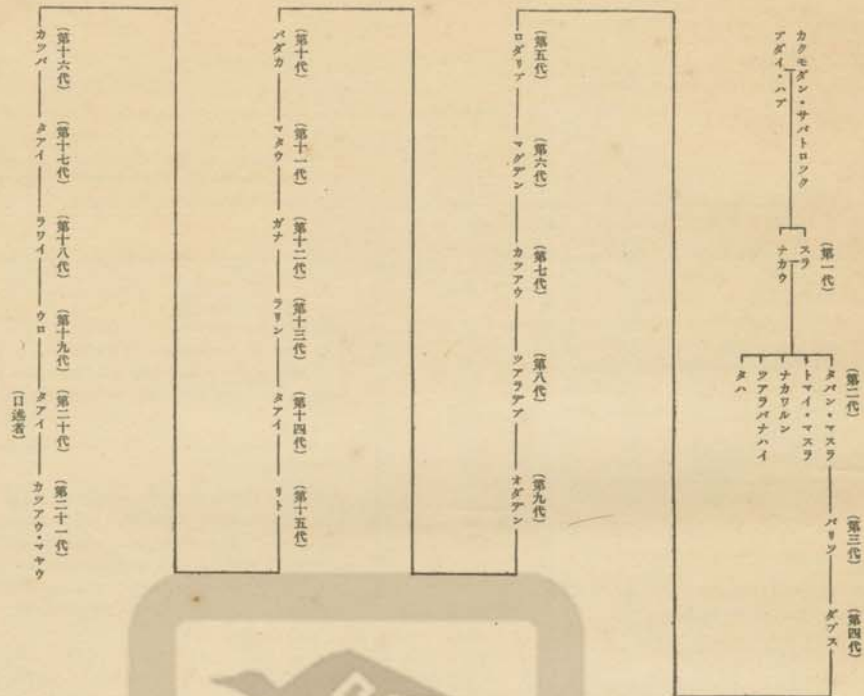
Kiwit 社 (寄密社) Kiwit 氏族
 花蓮港廳鳳林支廳

口述者 Katsau-Paros-Kiwit 男 52 歳
 採録者 馬 潤
 昭和 7 年 4 月 9 日



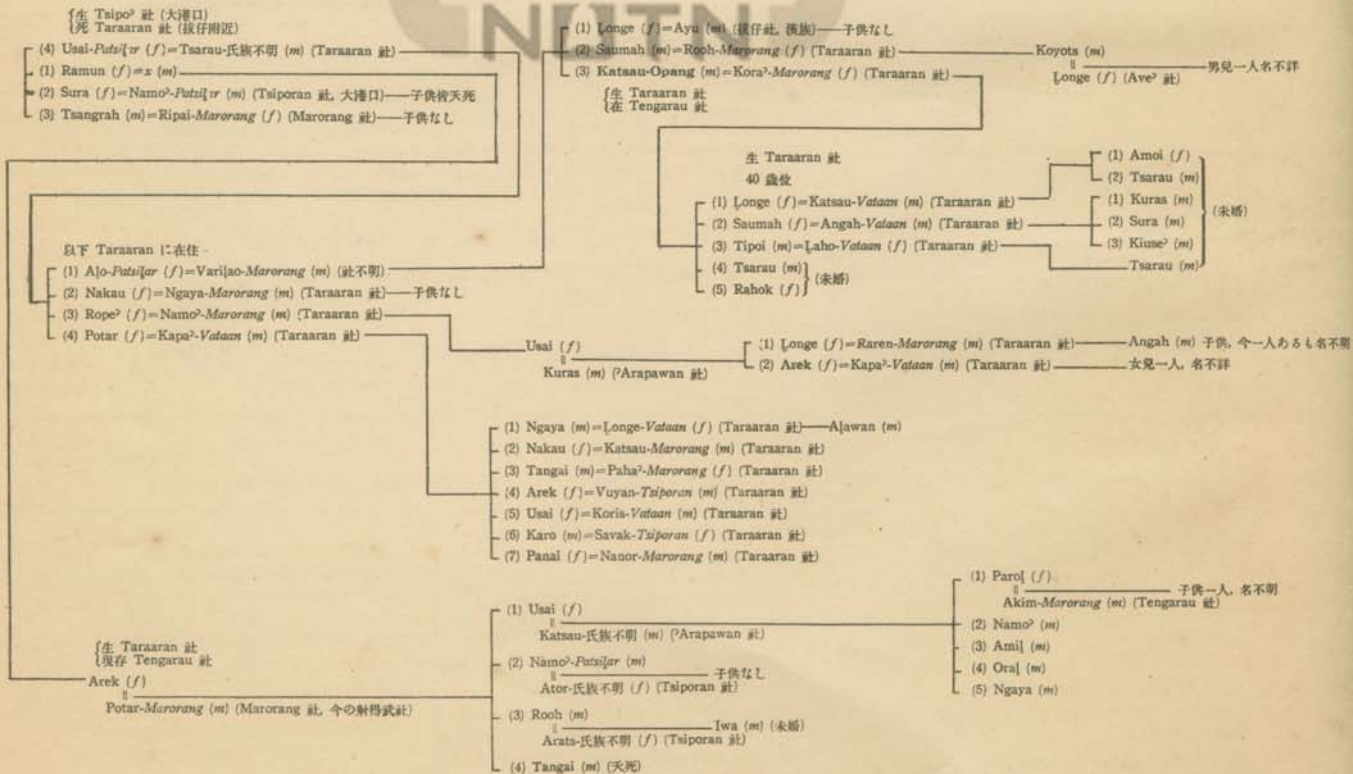
Kiwit 社 (壽密社), Salipongan 氏族
花蓮港廳鳳林支廳

口述者 Taai-Salipongan 男約 70 歳
採録者、井出宇一 (高密公學校元校長)



Tengarau 社, Patsilar 氏族
花蓮港廳鳳林支廳

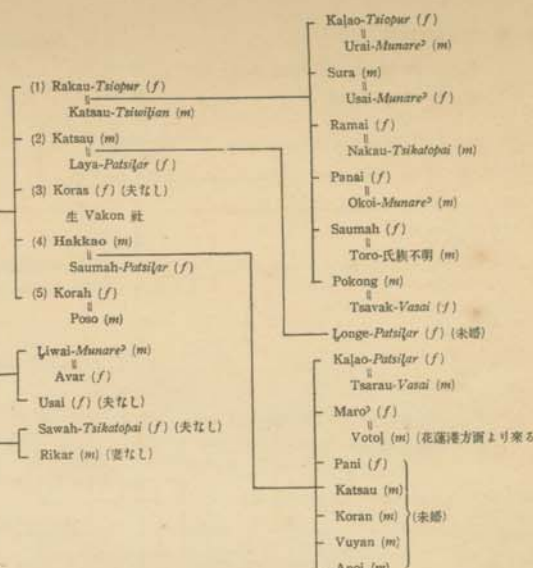
前題目
口述者 Katsau-Opang -Patsilar 男約 60 歳
通譯者 Polong-Patsilar 山口武雄
採録者 高 潤
昭和 6 年 6 月 18 日



288 種族 Pangtsah

Vakon 社 (魯公), Tsiopur 氏族
花蓮港廳鳳林支廳

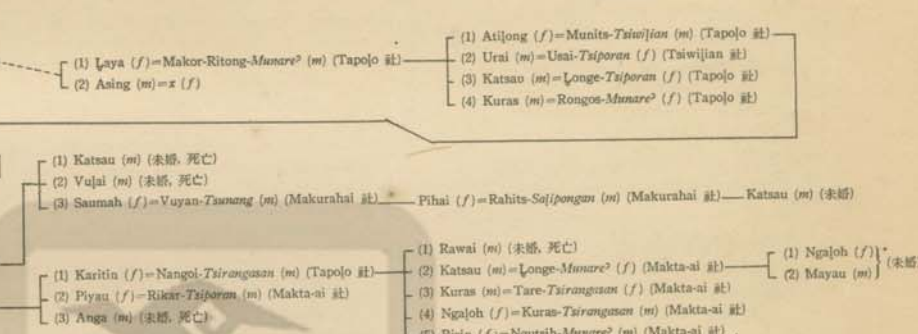
口述者 Hakkao-Tsiopur 男 45-50 歳
通譯者 陳 武 慶
採録者 馬 潤
昭和 4 年 11 月 15 日



289 種族 Pangtsah

Makta-ai 社 (大港口), Tsioporan 氏族
花蓮港廳鳳林支廳

口述者 Avai-Tsioporan 文久元年生
通譯者 林 金 盛
採録者 馬 潤
昭和 7 年 4 月 1 日

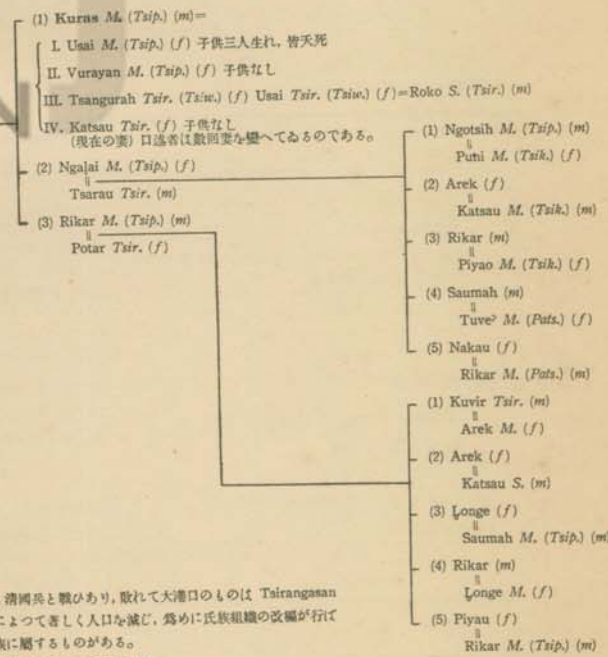
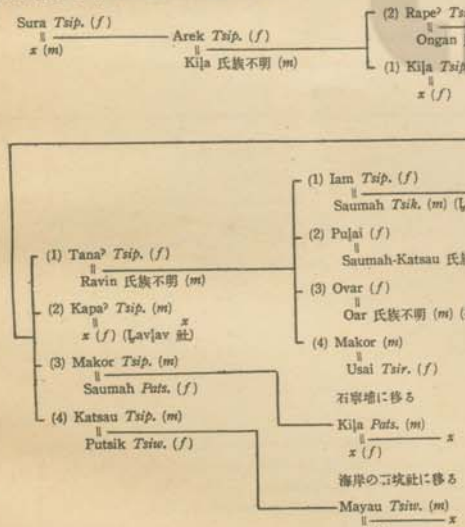


290 種族 Pangtsah

Makta-ai 社 (大港口), Tsioporan 氏族
花蓮港廳鳳林支廳

口述者 Kuras-Tsioporan 男約 65 歳
通譯者 林 金 盛
採録者 馬 潤
昭和 4 年 11 月 14 日

Sura の祖先は Takijis (花蓮港北方) に居た。次に船に乗り、Sanasai (大燒島) に移る。その後代を死たか不明、Sura は Sanasai から臺東附近に上陸し、更に大巴壠社に移り、次に海岸に出、大港口に来る。



口述者 Kuras が 12-3 歳の頃、清國兵と戦ひあり、敗れて大港口のものに Tsirangasan 山その他に一時逃る。この戦亂によつて著しく人口を減じ、爲めに氏族組織の改編が行われた。その結果本来とは異なる氏族に屬するものがある。

本系譜にイマツクを以て示され居るは次の諸氏族の略稱。

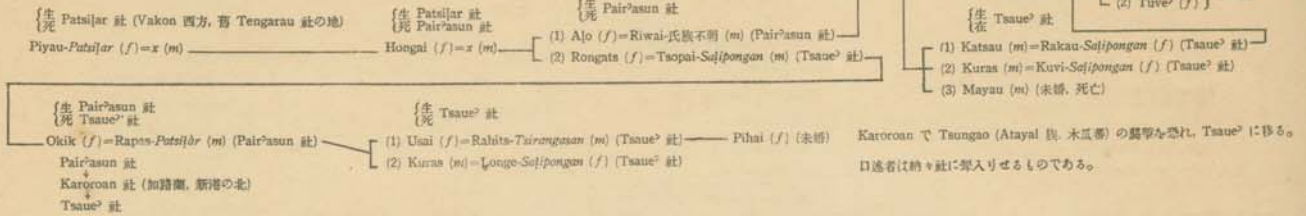
- () は舊氏族組織に基くものを示す。
- Tsiip. Tsioporan
- Tsiik. Taikatopai
- S. Sajipongan
- Tsiir. Tsirangasan
- Pats. Patsilar
- M. Munare²
- Tsiw. Tsiwifan

尙、番社名の記入なき配偶者は同社内の婚姻である。

291 種族 Pangtsah

Tsuae² 社 (納²社), Patsijar 氏族
花蓮港鳳凰支廳

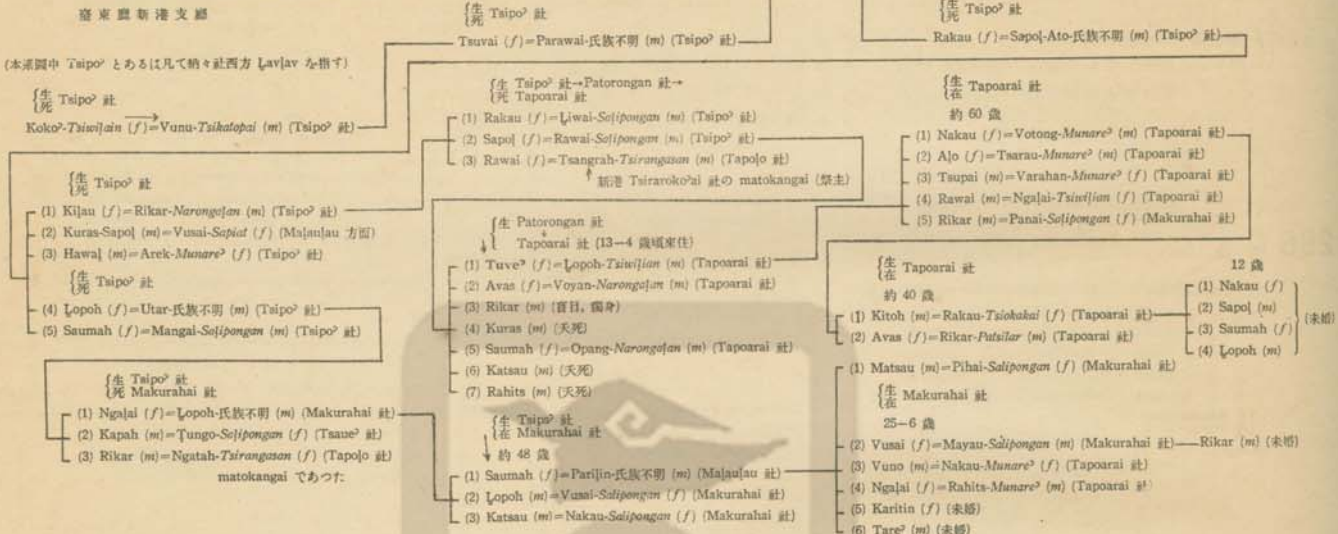
口述者 Katsau-Patsijar 男 60-65 歳
採録者 馬 潤
昭和 7 年 3 月 31 日



292 種族 Pangtsah

Tapoarai 社 (大俱來社), Tsikatopai 氏族
臺東廳新港支廳

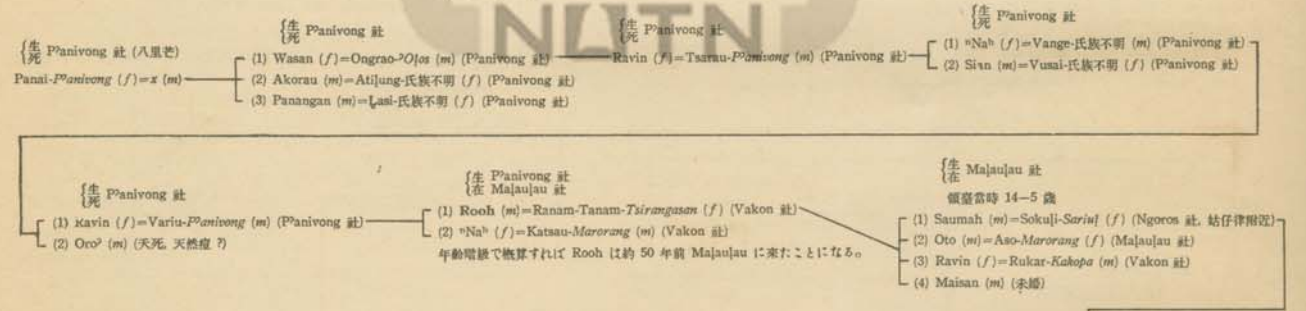
口述者 Tuve²-Tsikatopai 女 70 歳
採録者 馬 潤
昭和 7 年 3 月 30 日



293 種族 Pangtsah

Majaulau 社 (復者編社), P'anivong 氏族
臺東廳新港支廳

口述者 Rooh-P'anivong 男 65 歳
採録者 馬 潤
昭和 7 年 3 月 17 日



294 種族 Pangtsah

Tsiraroko'ai 社 Tsi-okakai 氏族
臺東廳新港支廳

口述者 Akui-Tsikatopai 男 約 60 歳
採録者 馬 潤
昭和 7 年 3 月 17 日



295 種族 Pangtsah

Kahtsijai 社 (加只來社) (Piuma 系統)

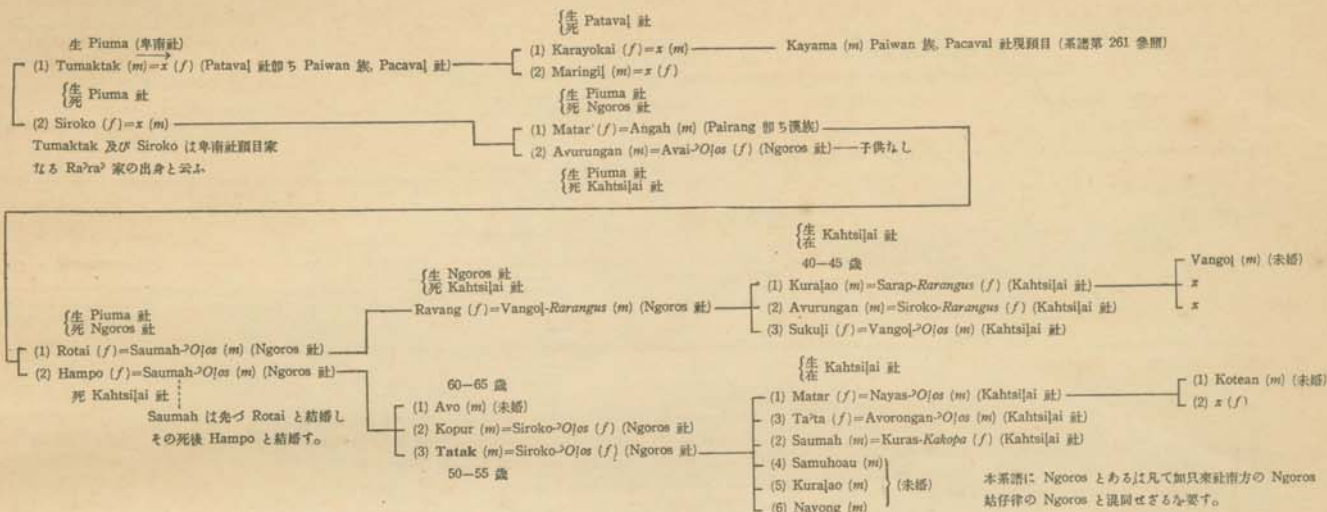
臺東廳新港支廳

口述者 Tatak 男 50-55 歳

通譯者 顏 傳 淵

採録者 馬 淵

昭和 7 年 3 月 23 日



296 種族 Pangtsah

Arapawan 社 (頭目吧喇社) Rarangus 氏族

臺東廳新港支廳

口述者 Arupanga-Rarangus 男 42 歳

昭和 7 年 3 月 20 日



297 種族 Pangtsah

Kakawasan 社 (猴仔山社), Pautawan 氏族

臺東廳臺東支廳

口述者 Vurau-Pautawan 男 65-70 歳

Ngayau-Pautawan 男 61 歳

採録者 馬 淵

昭和 7 年 3 月 16 日

當時 Rarangus 氏族と一緒に居た

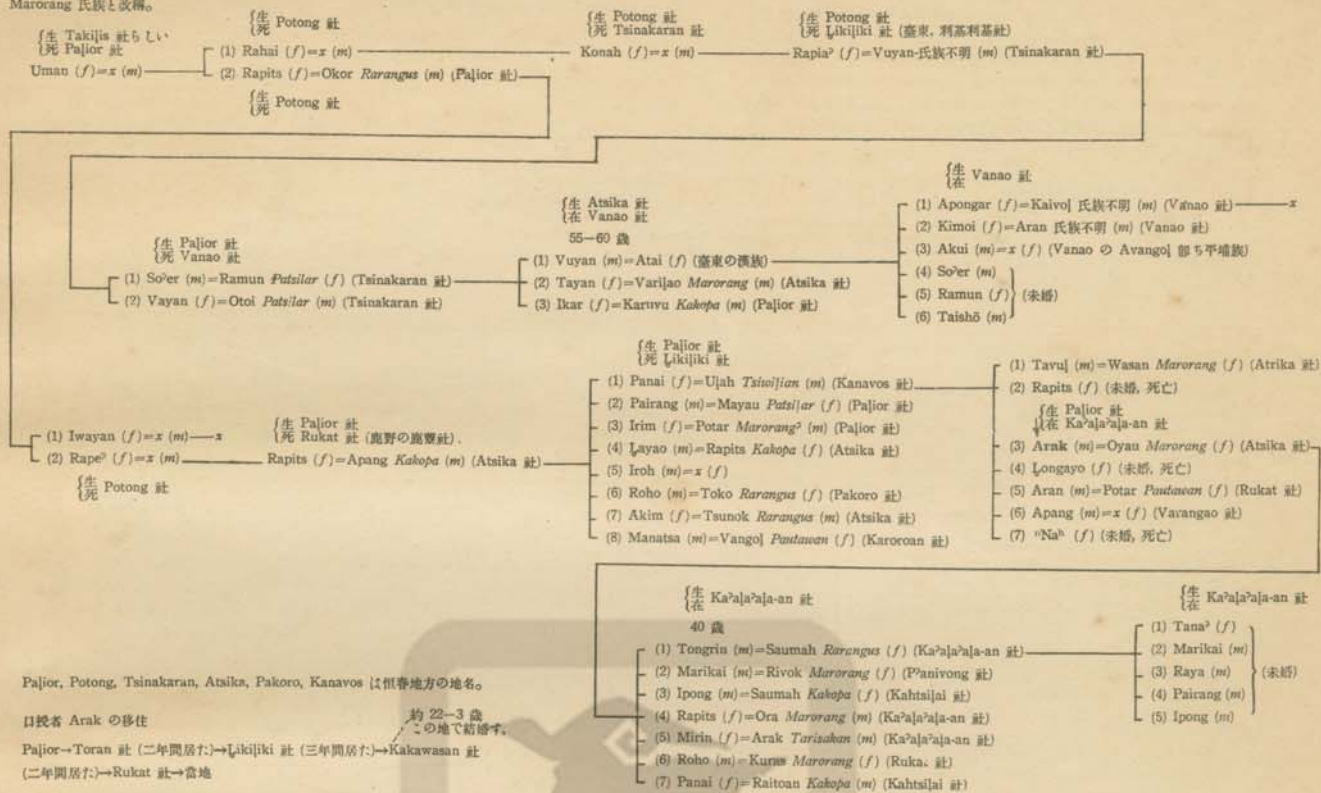


300 種族 Pangtsah

Ka'ala'ala-an 社 (南公火社), Marorang 氏族
 遼東遼里嶺支離

口述者 Arak-Marorang 男 70 歳
 通譯者 Saumah-Tarisakan (男)
 採録者 馬 潤
 昭和 7 年 2 月 3 日

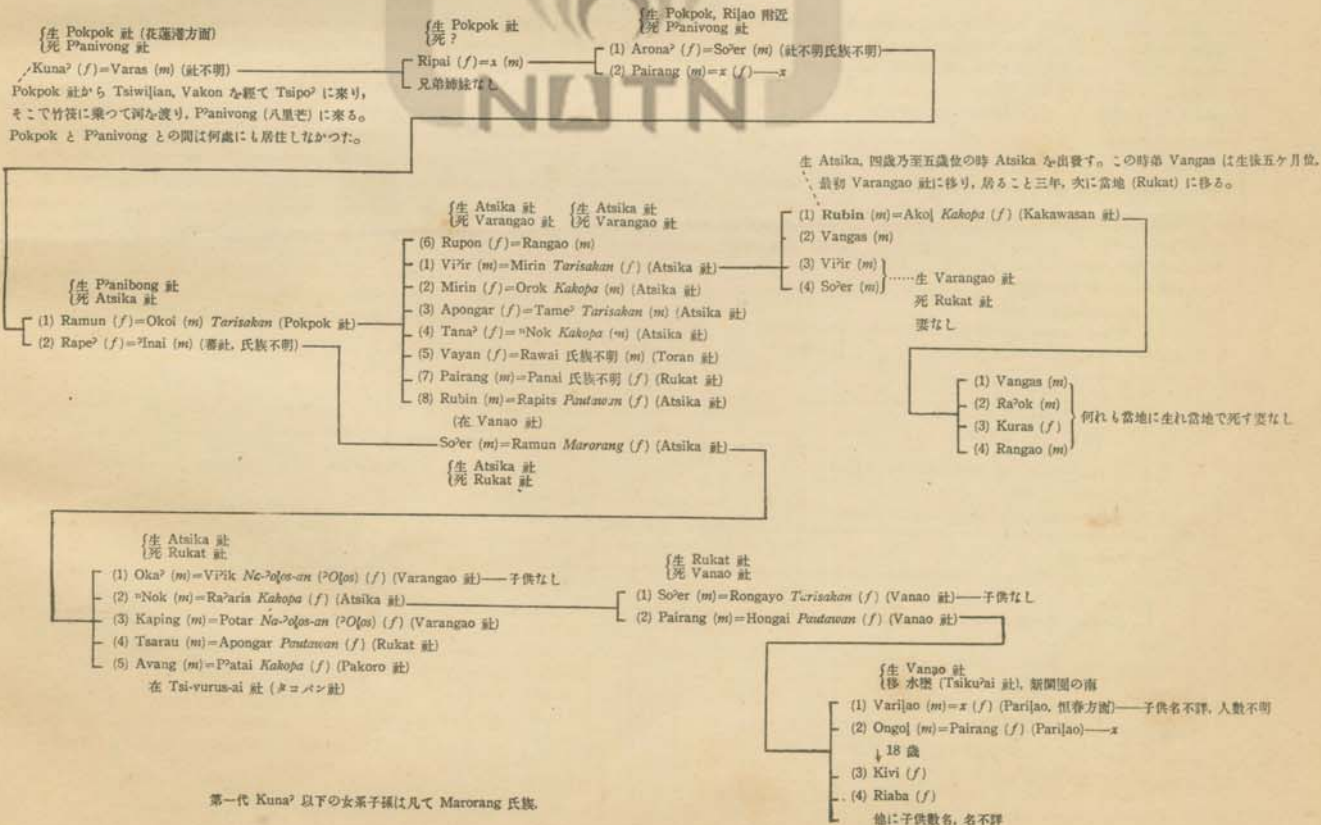
Takijis 時代には Taiwilian 氏族であつたが, Parijao (恒春地方) に行つてから Marorang 氏族と改稱。



301 種族 Pangtsah

Rukat 社 (鹿窟社), Marorang 氏族
 遼東遼里嶺支離
 戸數 47 人口 478 (昭和 5 年 12 月末)

口述者 Rubin-Marorang (Rukat 社頭目) 男 60 歳
 通譯者 松山 隆四郎 (呂家出身)
 採録者 馬 潤
 昭和 6 年 4 月 20 日



302 種族 Pangtsah

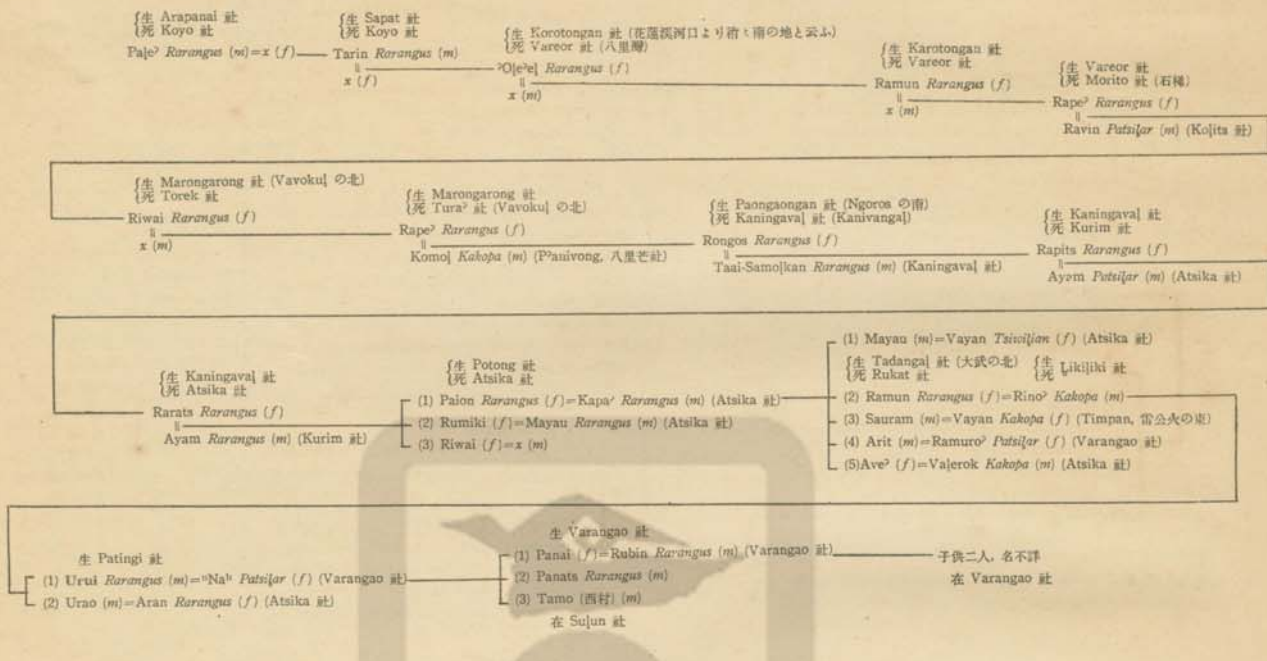
Parayapai 社, Rarangus 氏族
廣東羅里嶼支系

(口述者は現在花羅港郡、玉里附近の Sulun 社に居るが本家は Parayapai 社の者。この系譜は Parayapai 社で同人より採録せるものである。)

口述者によれば Rarangus 氏族は最初 Arapanai から Tairangasan (奇密社北) に行つたものと云ふ。またこの氏族は花羅港北方の Takijis に居たこともあるが、Taroko (Atayal 族、マロコ番) の壓迫を受けて南方に移動を始め、Patorongai (Patorongan), Vakon, Vareor, Kojits, Morito などを移り歩いた。併し、これらの地では Manoa (Banua 族) の襲撃あり、更に南下して Kanivanga) に来たところ、耕作地狭少の爲め、更に遠く Parijao (恒春地方) に赴き、Potong, Atsika, Kurim などを移り歩き、その後北進して羅里嶼支系下の地に来た。

口述者 Uru-Rarangus 男 65 歳
採録者 馬 潤
昭和 6 年 4 月 21 日

Uru の口述には曖昧な點が多く、尋ねる毎に著しく話の内容が異に容易に信用し難い。本系譜は Parayapai 社で三回調査して最後に得られた結果である。但し、最初の六七代を除き、三回共大體口述が一致してゐた。



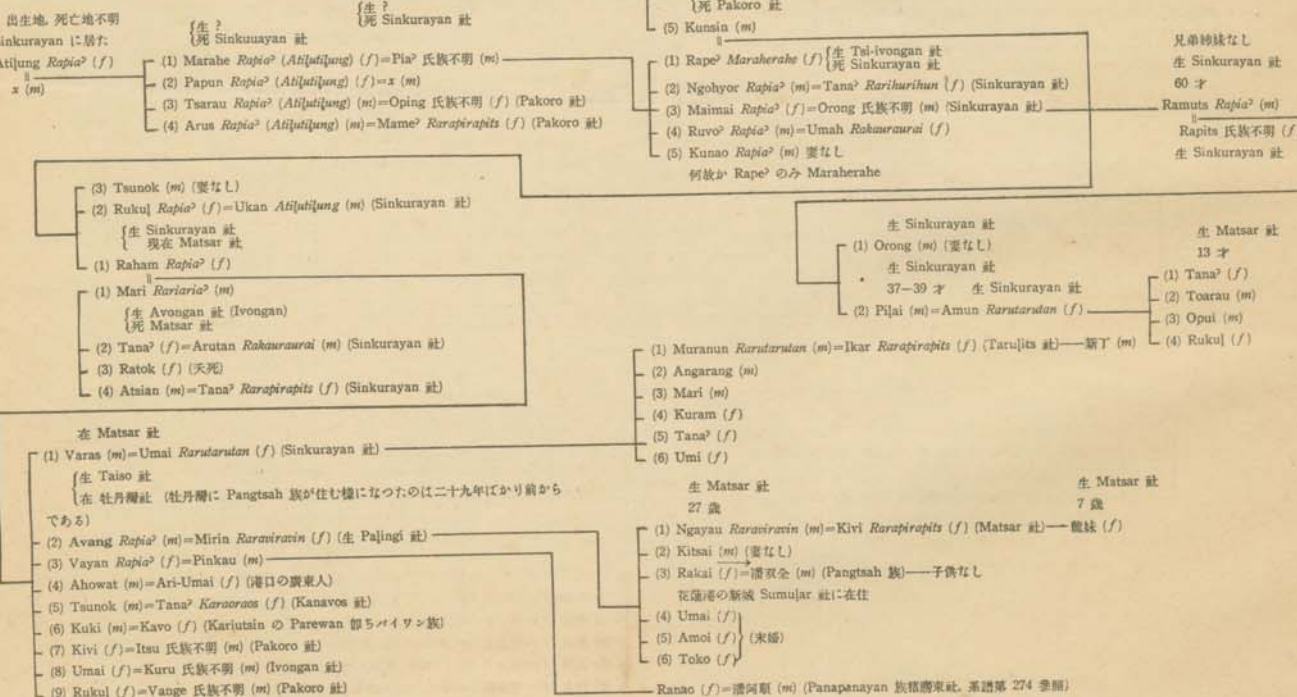
303 種族 Pangtsah

Matsar 社 (牡丹社), Rapia[?] 氏族
高雄州恒春郡

口述者 Avang-Rapia[?] 男 48 歳
通譯者 潘阿順 (ハイワン族)
採録者 馬 潤
昭和 6 年 4 月 8 日

(Sinkurayan, Taiso, Tsi-ivongan (Ivongan) は港口 (Pokoro) 附近の地名)

これより以前は花羅港北方の Takijis に居た。第一代の Atilung、第二代の Marabe は Takijis で生れたものらしい。Takijis では土地狭く、また Taroko (Atayal 族、マロコ番) が時々首狩に来るので南方に移動を始め、遂に遠く恒春地方に来たのである。Takijis 社の近くに Sumular 社 (新城) があつた。Takijis は東方にあつて海岸に近い。Sumular は西方の山脚地である。



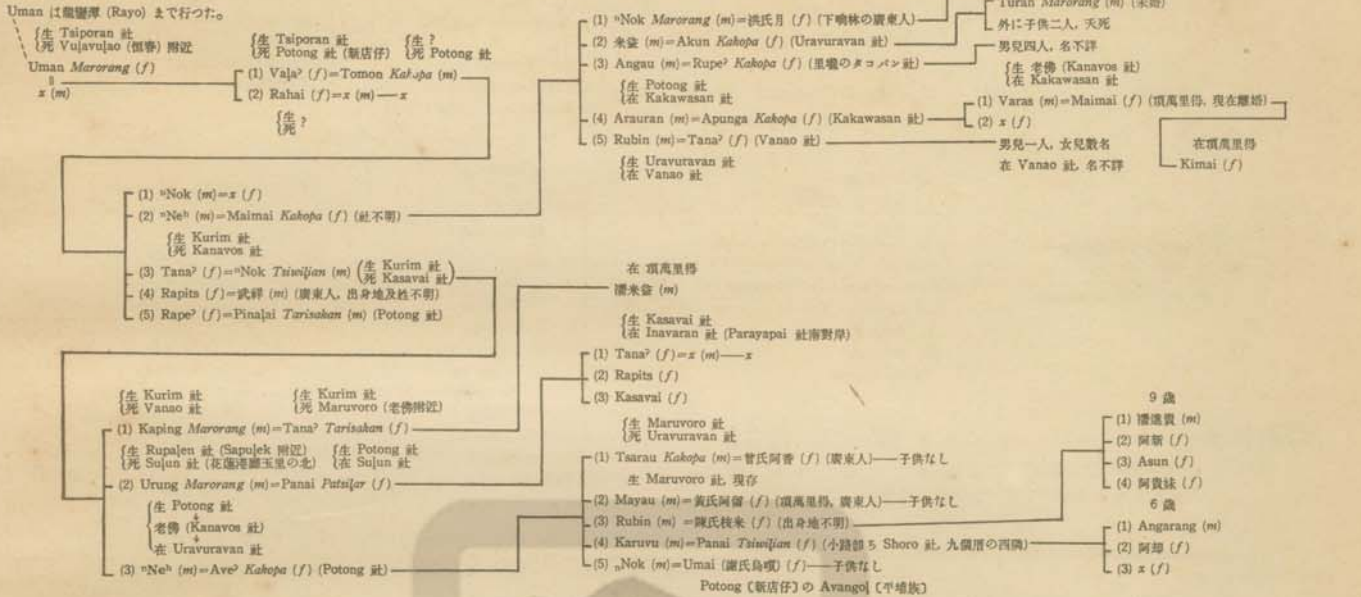
304 種族 Pangtsah

Uravuravan 社 (九個厝), Marorong 氏族
高雄州恒春郡

口述者 *Ne^h-Marorong (潘武二) 男 89 歳
採録者 馬 潤
昭和 6 年 4 月 8 日

Tsiporan より以前には Kariawan (花蓮港、加禮宛庄) 方面に居たが Taroko (Atayal 族マロコ系) に攻められて南下した。併し Tsiporan では病人が多かつたので更に南に退き、海岸側に Pakoro (港口) に来る。この移動の時大武 (Pangurui) から西方山地に道を轉じたのもあつたが、これらは皆 Parewan (バイワン族) に殺された。第一代、Uman よりも以前に恒春地方の龍鑾潭附近に来てゐた Pangtsah 族があり、同地の赤土に平な作つたところよく出来たのでその土をもつて龍東方面に行き、同族の來住をすゝめたと傳へられる。

第一代以下の女系子孫は凡て Marorong 氏族である。

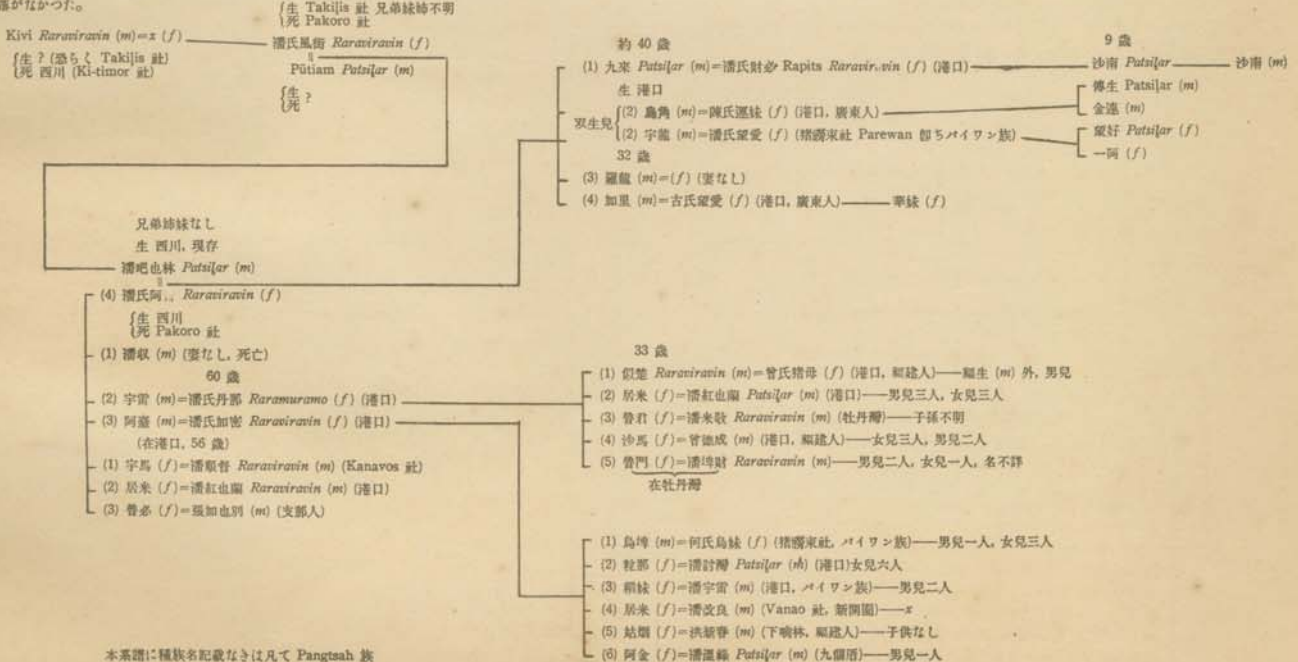


305 種族 Pangtsah

Pakoro 社 (港口) Patsilar 及び Raraviravin 氏族
高雄州恒春郡

口述者 潘烏角 Patsilar 男 34 歳
通譯者 吳 丁 蘭
採録者 馬 潤
昭和 6 年 4 月 2 日

昔 Takijis (花蓮港方面) に居た。そこでは土地狭く、且つ Atayal 族のマロコ系や木瓜系が攻めてきて、生活に不便であつたので南方に移動し始めた。先づ馬太鞍、大巴壁社あたりを経て新開園の Vanao を通り、臺東→大武→港仔→四林格 (Paiwan 族 Sudake 社) →Vangsar (新沙) を経て Pakoro (港口) に来る。Takijis から南下する途中、恒春から土地を求めて北上する平埔族 (Avangol, 現在大庄方面に居るもの) と公埔附近で出会つたと云ふ。この時代大庄や舊庄にはまだ平埔族の部落がなかつた。



本系譜に種族名記載なきは凡て Pangtsah 族

306 種族 Pangtsah

Daurek 社 (月眉社)
花蓮港廳花蓮支廳

口述者 Kabaraan 男 60 歳
通譯者 林田登 (Votol-Adop)
採録者 馬 潤
昭和 6 年 6 月 25 日

{生 Takoboan 社
{死 Tsipaokan 社
Podah (f)
x (m)

{生 Takoboan 社
{死 Tsipaokan 社
(1) Panai-Podah (f)=Ravang (m) (Tsipaokan 社)
(2) Votol-Podah (m)=Ohor-Mangoi (f) (Tsipaokan 社)

- (1) Rame^o (f)=Nengai (m) (Tsipaokan 社)
{生 Takoboan 社
{死 Tsipaokan 社
- (2) Tsiau-Ravang (f)=Kinus (m) (Tsipaokan 社)
- (3) Rako (f)=Bato (m) (Tsipaokan 社)
- (4) Bato (m)=Vunur (f) (Tsipaokan 社)
- (5) Pulats-Ravang (m)=Rara^o-Ka^o'ts (f) (Tsipaokan 社)
- (6) Koko^o-Ravang (m)=O^oor-Donge (f) (Tsipaokan 社)

- {生 Tsipaokan 社
{在 Daurek 社
- (1) Kabaraan (m)=Pohai (f) (Tsipaokan 社)
 - (2) Panai (f)=Dangno (m) (加禮宛庄クスマラン族)
 - (3) Bato (m)=Tsiau (f) (Ridao 社)
 - (4) Komod (m)=Pah (f) (Tsikasowan 社)
 - (5) Ohin (m) (妻なし)

{生 Takoboan 社
{死 Tsipaokan 社 (大禮島)
(1) Rame^o (f)=Ataiu (m) (漢族)
(2) Ohor (f)=Kaut (m) (Pok-pok 社)
死 Tsipaokan 社

- {生 Tsipaokan 社
{在 Tsiwidian 社 (水蓮尾)
- (1) 大江安正 (Komod) (m)=大江ニシエ (f) (内地人)——子供なし
 - (2) Katsau (m)=Sura (f) (Ridao 社)——子供なし
 - (3) Tipes (f)=Saming (m) (Pokpok 社)——Kabaraan (m)
 - (4) Vunur (f)
 - (5) Dunguts (m) (未婚)
 - (6) Kotsian (f)

Daurek 社 Patsijar 氏族 口述者 Ngayau (Patsijar 氏族) 男 41 歳
通譯者 中村 幸吉
6 月 26 日

{生 ?
{死 Pakoro 社 (恒春郡港口)
Maimai (f)
Tsuok (m) (社不明, 花蓮港附近)

{生 Pakoro 社
{死 Rukat 社 (鹿野附近)
{死 Sulun 社 (未詳)
在 Karooran 社 (新社北方の)
(1) Rokos (f)=Avang (m) (Pakoro 社)
(2) Vurao (m)=Ramun (f) (Varangao 社)——子供なし
{生 Pakoro 社
{死 Rukat 社
{死 Sulun 社
在 Karooran 社

{生 Pakoro 社
{死 Rukat 社
(1) Tsarau (m)
{生 Pakoro 社
(2) Kivi (f)
{生 Pakoro 社
{死 Rukat 社
{死 Sulun 社
北埔 (Hoppo)
在 Daurek 社
(3) Ngayau (m)=Rape^o (f) (Varangao 社)
死 Rukat 社
(4) Nok (m)=x (f)
死 Sulun 社
(5) Ramun (f)=x (m)

生 Sulun 社
(1) Karui (m)
(2) Amoi (f) (未婚)
(3) Rana (f)
在 北埔

307 種族 Pangtsah

Varangao 社 (馬蘭社)
臺東廳臺東支廳

口述者 顏目 Voto^o 男約 60 歳
副顏目 Ngayau 男約 55 歳
採録者 杉 川 馬 潤
昭和 4 年 5 月 8 日

祖先(加走)の方面から尖つ馬蘭社附近の岩脚 (Wawan) に来たと言ふが「誰の時代か」分らない。

- Tarongatong (m)——Panai (f)——Ilu (m)——Kamuro^o (f)——Rinao (m)
- Manatsa (m)
- Ripai (f)

- Mananiar (f)——Kanas (f)——Lotse (f)——Maro^o (m)——x——Saumah (f)
- (1) Na^o (f)——Panai (f)——x (m)
- (2) Virangan (m)

(約 40 歳)
現在當社に居る 12—13 歳

